三池・夕張の大災害を繰り返すな

発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市入船町1番地
電話(53)3033番 (53)3034番
編集兼発行人　杉本一男
半年間1,200円　送料共

公判お知らせ

三池大災害裁判公判
十一月二十日午後一時十分から、福岡地方裁判所で。

坑内火災裁判公判
十二月三日午後一時から、同右裁判所で。

期末闘争へ突入
五十万円を要求

いよいよ期末手当の闘争に突入しました。要求額を五万円増額して五十万円とし、満額獲得を目ざします。

すでに中闘も召集され、十九日を期限付回答日に指定、低額回答を許さず闘い抜こう。

なお三作でも五十万円を要求、十二日以降交渉を進めます。

資本・政府の責任追及へ

三池大災害抗議集会で誓う

三池大爆発から十八年を迎えた九日、大牟田市民会館で〝抗議集会〟を開催、千二百人が結集しました。集会は、映画「三池のたたかい」を上映、来賓あいさつ（別項）のあと、三池・夕張の犠牲者に黙とうを捧げました。

集会はさらに、小川三池原告団長の決意表明のあと、主催者代表の森田組合長の決意表明が行なわれ、責任追及と保安確保の闘いをさらに強めることを誓いあい、このあと三池鉱業所への抗議デモを行ないました。

11.9大災害18周年抗議集会のフィナーレ。怒りと決意をこめて全参加者が歌う〝がんばろう〟

来賓あいさつ（要旨）

野呂　潔
炭労委員長

三池大爆発から十八年間、私たち炭鉱労働者は、二度とこのような災害を起こさず、生命を守るためにしっかりがんばろうと誓い、闘ってきました。ところがまたしても、北炭夕張新鉱で災害がひき起こされ、九十三人もの死者を出したのです。しかもそのうちの五十八人は、水没した坑内に今も横たわっています。

災害後わずか十数時間しかたっていないとき、北炭の社長は早くも坑内注水を提案してきました。彼らは、労働者の命など虫ケラとも思ってはいないのです。私たちは、三池大災害と北炭夕張の災害をともに忘れず、断じて安全職場をつくっていくために、さらに団結を固めて闘っていく決意です。

岩崎隆次郎
福岡県評事務局長

災害が続くなか、しきりに労働戦線の統一がいわれています。

各産業では、大企業は「無事故」をくり返していますが、そんな企業のなかで働く下請労働者の間には重軽傷が相ついでいます。

今労働戦線の統一をいうなら、労働者が闘う誇りを失なわず、またこのような下請労働者仲間から何かあればすぐ「助けてくれ」と電話をかけてくるような、組織の力を強めるものでなければなりません。三池闘争の歴史に学び、統一の原則の上にたってがんばりましょう。そこに、このような労働

長谷部忠士
社会党福岡県本部書記長

三池大災害から十八年、またも北炭夕張新鉱で九十三人の命が奪われました。「抵抗なくして安全なし」「安全なくして労働なし」三池大災害の教訓として生まれたこのスローガンを基本に、今後は(1)石炭政策を全エネルギー政策のなかで、しっかりと位置づけること。(2)資本の経営政策を変えさせること。ただ経済性だけの追求から脱却して、石炭を民族資源としてどう守らせるか、このことこそが重大です。今こそ三池闘争の原点に立ちかえって、闘いを強めましょう。

有馬和子
日本共産党福岡県委員会　文化教育部長

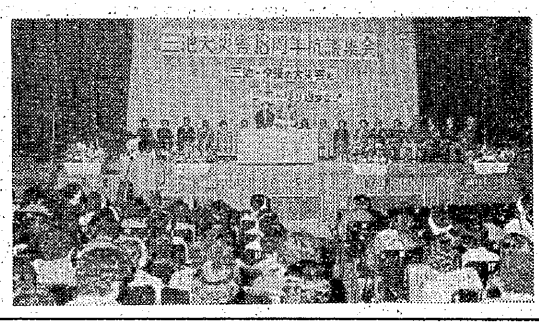
三池闘争の精神を受け継ぎ、ねばり強く闘ってこられた三池の皆さんに敬意を表します。

今再び北炭夕張新鉱で大災害がくり返され、怒りを覚えずにはいられません。

犠牲者のために、私たちは何をなすべきでしょうか。今ニセ行革が国民に押しつけられようとしていますが、必ずや福祉抑制は強まり、さらに激しい資本の合理化がくるでしょう。

いま、労働戦線統一が叫ばれていますが、労働組合の、資本からの独立があってこそ、真の統一をめざす道も開けてきます。また、そのために闘う力こそ二度とこのような災害をくり返させぬ力になると信じます。真の労働戦線の統一をなしとげ、労働災害絶滅のために共に闘いましょう。

災害の発生を絶つ道も見い出されることを信じます。



寄せられた激電

十八周年を迎えた十一・九三池大災害の抗議集会にさいし、深甚なる哀悼の意を表します。また、ふたたび北炭夕張の仲間の尊い命を奪い去った、石炭資本と自民党政府の利潤追求・生産第一主義と安全無視の資本の本質に対し、怒りをあらたにします。「安全なくして労働なく」の合言葉のもとに、労働者の生命と健康を守り、労働者の解放の日まで共に手を取り合い、不屈の闘いを闘い抜くことを誓い、同志のみなさんのご健闘を祈ります。

日本労働組合総評議会
議長　槇枝元文
×
社会主義協会　奥田八二
福岡県評主婦の会
衆議院議員　細谷治嘉
参議院議員　安恒良一
参議院議員　松本英一
東京都高教組三池CO患者を守る会
東京　織井青吾
日本社会党中央副執行委員長　阿具根登
社会問題研究所
参議院議員　小野明
福岡第一法律事務所
（順不同敬称略）

決意表明にたつ組合長、主婦会長＝中央

組合長・主婦会長の〝決意表明〟（大要）

一九六三年十一月九日午後三時十五分、三池炭鉱三川鉱で発生した炭じん爆発は、一瞬にして四百五十八名の仲間の命を奪い、八百三十九名にのぼる仲間を傷つけました。

残された遺族をはじめ、今なお病床に呻吟する仲間や、後遺症に苦しむ同僚の姿を見るとき、資本に対する激しい怒りと憎しみをおさえることはできません。改めて三井資本の人命無視・生産第一主義の態度を糾弾します。

「去るも地獄、残るも地獄」の合言葉で闘った三池闘争以来、政府と石炭資本は相次ぐ保安無視、人べらし合理化を強行するなかで、多くの炭鉱労働者の命を奪ったのみか、去る十月十六日、北炭夕張新炭鉱におけるガス突出・坑内火災は、九十三名の仲間の尊い命を奪い、三池・山野につぐ戦後三番目の大災害となりました。

今なお冷い坑内で眠る五十八名の仲間と、遺家族の心中を思うとき、なぐさめの言葉もありません。これらの相次ぐ大災害の責任は、政府・独占の生産第一・人命無視のあらわれであり、人災であることは明らかです。

第七次石炭政策を目前にして、真の国民のためのエネルギー政策を確立するためには保安の確立こそ最大の急務です。「抵抗なくして安全なし」「安全なくして労働なし」の原点にかえり、働く者の生命とくらしを守る闘いを職場・地域でさらに強め、政府・独占に対する責任追及を柱に、二つのCO裁判闘争の勝利のために、労災・職業病撲滅、反公害闘争など、全国の仲間との連帯を強化し、闘い抜くことを固く誓い、決意の表明と致します。

一九八一年十一月九日
組合長　森田満明
会長　島文枝